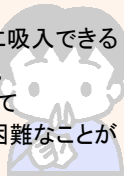


2月から気をつける病気

1 インフルエンザ

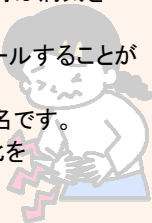
A、B型がヒトに感染をおこします。
今年はA香港方が流行すると予測されています。
1月下旬から、この地域でもA型、B型が見られます。

インフルエンザは急激な発症をします。
突然の高熱、咳、全身倦怠感、関節痛が主な症状です。
小児では、脳炎（発熱、意識障害、けいれん）が一番重症な合併症です。
治療はタミフル、リレンザ、イナビル、漢方薬があります。
リレンザ、イナビルは吸入薬ですので、5歳以上で上手に吸入できるお子さんでないと、うまく治療ができないかも知れません。
インフルエンザの検査は鼻腔から鼻汁のぬぐい液を採って行いますが、発症してから12時間経過しないと判定が困難なことが多いです。



2 ロタウイルス胃腸炎

水様性下痢をおこします。
下痢が続き、水分摂取が少ないと脱水症が心配です。
白っぽい（クリーム色）、酸っぱい臭いのする便が出た時は病気を疑って下さい。
特効薬はありませんが、漢方薬で腸の炎症をコントロールすることができます。
無熱性けいれん、脳炎・脳症が重大な合併症として有名です。
生後2ヶ月からロタウイルスワクチンを2回うって重症化を予防しましょう。



スギ花粉症

今年は昨年のお3-5倍量の花粉が飛散すると言われています。
くしゃみ、鼻汁、鼻づまりが3大症状です。

早期の対策が必要です。
発症が低年齢化しており、1-2歳からスギ花粉症になることもあります。

軽症は点鼻薬、点眼薬で、中等症以上は抗アレルギー薬や漢方薬を内服します。

重症な方はこれらの治療に加えて、耳鼻科処置（レーザー治療など）も必要となります。



お知らせ

小児夜間急病センター当番日

2月1日（金） }
3月1日（金） } 19:30-22:30（受付） 岐阜市民病院

